

鎌倉殿を支えた

2 伝承の歴史的価値と大谷の伝承の中で生きる比企氏を知る



比企尼山

勝者が記した文献は、全てが事実とは限らない

右ページの比企の乱の記述は、北条氏のもとで書かれた鎌倉時代の文献「吾妻鏡」によるものですが、「能員は、対立している北条氏の家をなぜ武装もせずに訪問したのか」との疑問から、能員の時政暗殺のたくらみ自体が作り話ではないかと考える専門家がいます。つまり、能員暗殺を正当化するために、「先に能員が暗殺をたくらんだ」と書き加えたのではないかと考えられるということです。書物として残されている史料は歴史を知る上でとても重要ですが、歴史上の勝者や権力者が自分に都合のいいように書いた可能性があるのです。

「伝承」こそ、教科書に載らない敗者の歴史

昔のことを知る方法として、「口頭伝承」もまた、立派な史料の一つです。誰でも気軽に書き残すことができなかつた時代の、特に敗者や地位の低い人々のことを知るための重要な情報と言えます。ここで、大谷地区に残る「比企の乱の後、若狭局と一族の一部が逃げてきて、この地に住んだ」という6つの伝承を紹介します。

1 比企尼山の伝承

比企の乱後、頼家も北条氏に暗殺され、夫を失った若狭局が逃げてきてここで暮らしたという伝承があります。若狭局は、ここに「大谷山寿昌寺」という寺を作り頼家を弔ったと言われており、寿昌寺は現存しませんが、場所を移して「宗悟寺」と名を変え残っています。

2 須加谷の伝承

若狭局が夫を失った悲しみを蛇に巻き付かれたような苦しさになぞらえて、苦しみを鎮めるために「蛇苦止観音」を作り祈願したと言われていました。観音様はこの地にあった菅谷観音堂に祀られていましたが、廃寺となり、現在は宗悟寺に祀られています。

3 串引沼の伝承

若狭局が夫を失った悲しみを忘れるために、形見であった鎌倉彫の櫛を投げ入れたという伝承があります。現在、沼はゴルフ場の敷地内にありますが、外から眺めることができます。



4 城が谷の伝承

埼玉県史等には、この地に比企氏の館があったと書かれています。比企氏の館があったとする伝承はここ城が谷、岩殿、古凍、滑川町三門館、川島町金剛寺の5か所に残っていますが、館跡はどこからも見つかっていません。



5 梅が谷の伝承

若狭局が年老いてから、この地に住んでいたという伝承があります。きれいな水が涌く泉や梅の木があったと言われていました。

6 扇谷山宗悟寺の伝承

若狭局は頼家の位牌を作り冥福を祈ったとされ、その位牌が残されています。また、蛇苦止観音像も今に伝わります。



頼家の位牌(左)と蛇苦止観音像(右)。通常は公開していません。

1 ドラマ登場人物と比企氏の歴史を知る

比企氏年表	
1147年(久安3)	頼朝が誕生し、比企局が乳母となる
1156年(保元)	保元の乱で義朝が活躍
1160年(永暦)	平治の乱で源氏が敗戦、伊豆に流刑となった頼朝を比企尼が20年間支援
1180年(治承4)	平家打倒のため、頼朝が挙兵
1182年(寿永)	頼家が誕生し、能員が乳母父となる
1185年(文治元)	壇ノ浦の戦いで平家が滅び、頼朝が各地に守護地頭を設置
1192年(建久3)	頼朝が征夷大將軍に、実朝が誕生
1198年(建久9)	一幡が誕生
1199年(建久10)	頼朝が亡くなる、頼家が二代將軍となる、十三人の合議制が敷かれる
1203年(建仁3)	比企の乱、比企氏滅亡

鎌倉幕府の影の立役者、比企尼

比企尼は、出家するまでは比企局と呼ばれていた女性です。夫が武將源義朝に仕える武士だったため、義朝の三男頼朝の乳母(育ての親)に指名され、京都で頼朝を育てていました。頼朝が13歳のころ、義朝が平治の乱で敗戦し、頼朝も罪人として伊豆で監視されながら暮らすこととなります。そこで比企局は比企の地へ移って出家。その後20年もの間、比企の地から伊豆の頼朝へ月に一度、監視の目をかいくぐって食料等の仕送りをしました。のちに鎌倉幕府を開く頼朝を支えた比企尼は、歴史上の重要人物なのです。

鎌倉殿を支えた御家人、比企能員

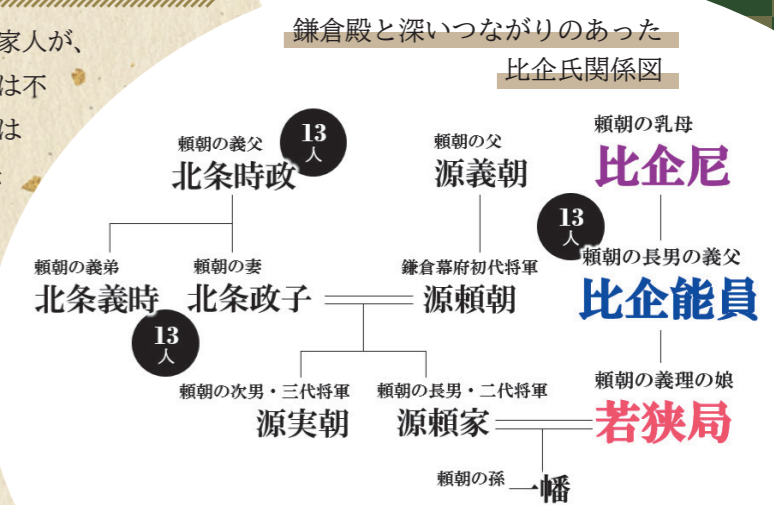
比企能員は、比企尼の養子で、頼朝の御家人(將軍に仕える武士)でした。20年間支援した比企尼の子という信頼もあり、頼朝からは戦の重要な役割を任せられ、鎌倉に屋敷をもらい、頼朝の長男頼家の乳母父(育ての親)に指名されました。その後、能員の娘若狭局が頼家と結婚し、二人の間に長男一幡が生まれました。これにより、のちに能員は將軍の母方の親族である「外戚」として大きな権力を持つようになります。

比企氏と北条氏の権力争い

同じく御家人であった北条時政は、「頼朝の次男実朝の母方の親族」でした。似た立場の能員と時政は、それぞれが「自分の孫が次の將軍になれば更に大きな権力を持つことができる」と考え、対立することとなります。頼朝の死後、二代將軍となった頼家が若すぎたため、政治決定については13人の御家人が將軍を支えることになりました(十三人の合議制)。能員もその一人で、頼朝の代からの信頼関係のもと、頼家から特に頼られ、外戚として権力を持っていました。一方時政は、「このままでは次の將軍は一幡になってしまう」と思い、いよいよ能員が邪魔だと考えはじめます。

時政が能員を暗殺、そして比企氏滅亡

頼家が病気で倒れたときに、時政を中心とする一部の御家人が、一幡と実朝への相続方法を勝手に決めました。これに能員は不満を持ち、ついに時政暗殺をたくらみます。しかし、時政はそのことを密かに知り、先に能員を暗殺してしまおうと「法事がある」と嘘をついて自宅に能員を呼び出しました。そして時政は、法事と信じて武装せずにやってきた能員を暗殺。比企氏の屋敷も襲われ、一幡を含めた比企氏は滅亡しました(比企の乱)。歴史の表舞台で比企氏が活躍したのは、年数にして、ほんの20年ほどだったと言えます。



※鎌倉殿…鎌倉幕府の將軍のこと

4

比企氏のことをより深く知る

Q 市内の比企氏ゆかりの場所は、ほかにもある？

A 高坂地区にもあります。

岩殿にある岩殿観音正法寺は、比企氏が信仰の拠り所としていた寺です。源頼朝が、正法寺を保護し、妻・北条政子の守り本尊(一生守ってくれる仏様)として比企能員に観音堂を再建させたと言われていす。近くには比企能員の孫員茂が能員の冥福を祈り建立したと言われる判官塚があります。



判官塚



正法寺観音堂

Q 市外の比企氏ゆかりの地のことも知りたい！

A 大岡市民活動センターのパネル展示は必見。



市内外のゆかりの地をまとめたパネルで、一度に各市町村の情報を知ることができます。これを読んで、ぜひ市外の伝承地も訪れてみてください。

Q 比企氏のことをもっと知りたい！

A 市立図書館所蔵の関連図書を読んでみては。



『探訪 比企一族』
西村裕・木村誠 編著
比企一族歴史研究会
まつやま書房 刊



『中世武蔵人物列伝』
埼玉県立歴史資料館 編
さきたま出版会 刊

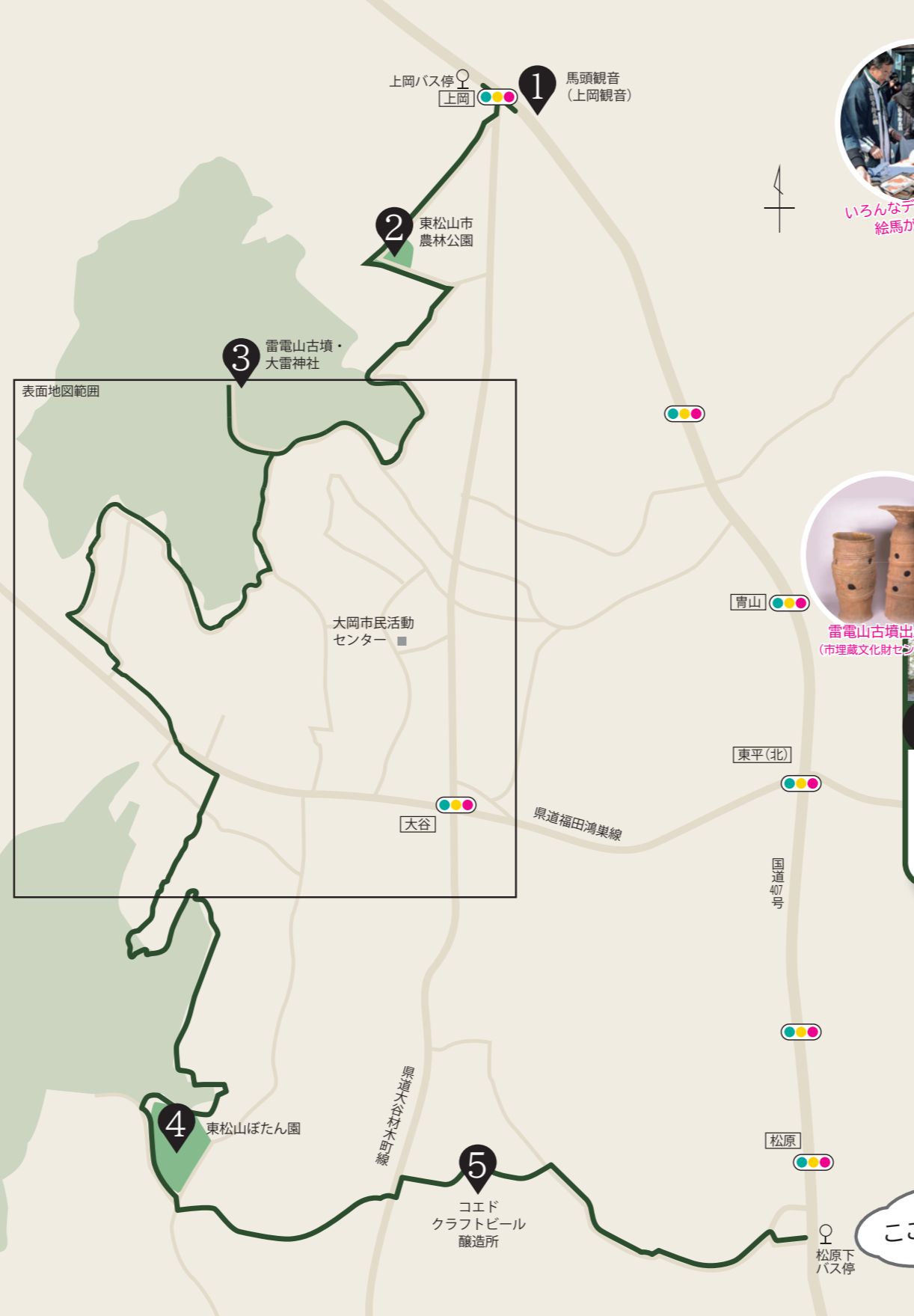


『甦る比企一族』
清水清 編著
比企一族顕彰会 刊

発行 東松山市広報広聴課

☎ 0493-21-1410 FAX 0493-22-7799

※この印刷物は広報ひがしまつやま令和4年2月号を一部編集したものです。



3

比企氏が暮らした大谷地区を歩く

市北部のスポットをつなぐ「みどりのみち」をお披露目。鎌倉時代に思いを馳せながら、比企氏が暮らしていたと思われる地を歩いてみませんか。



いろんなデザインの色馬がズラリ！

1 馬頭観音(上岡観音)

みどりのみち巡りのスタートは、馬頭観音で道中祈願。毎年2月19日の例大祭では絵馬市が立つことでも知られる。●岡 1729 ☎ 39-0052 (妙安寺)



3 雷電山古墳・大雷神社

全長約86メートルの帆立貝形古墳で、埼玉県最古の埴輪が出土した。古墳の後円部には大雷神社がある。●大谷 3506

比企氏の伝承地

市観光ガイドクラブによる比企氏伝承地のガイドを随時受付中。事前予約は市観光協会へ。☎ 23-3344

ここもオススメ！



大岡市民活動センター

オランダ風の建物と風車がおしゃれな、大岡地区のランドマーク。春のチューリップや秋のぎざぎざの菊も美しい。●大谷 3400-10 ☎ 39-0602 ●トイレ有●駐車場有



パフェを食べながらカフェで一休み。

2 東松山市農林公園

大人気のいちごの摘み取り体験は、事前に予約を。丘の上のカフェ「フーヴェル」の採れたていちごを使ったパフェも人気。●大谷 4212-1 ☎ 39-0150 ●トイレ有●駐車場有



大きな遊具にワクワク！

4 東松山ぼたん園

春に見頃を迎えるぼたんはもちろん、大型遊具やイベントも大人気の、一年中遊べるスポット。●大谷 1148-1 ☎ 81-7607 ●トイレ有●駐車場有



5 コエドクラフトビール醸造所

昭和50年代に建てられた美しい建物を利用した工場。ここで作られるCOEDOビールは、地域ブランド「ひがしまつやまプライド」の認定品。●大谷 1352 ☎ 0570-018-777